

つくばね vol.23no.3

● 目次

- 1 書物の寿命
- 3 研究と図書館
- 4 大型コレクション「中国第一歴史档案館所蔵歴史档案史料」について
- 7 視聴覚メディア特選
- 9 Ask Us としょかんミニガイド
- 11 とびつくす
- 12 掲示板

書物の寿命

竹宮 隆

昭和20年代の後半は戦後の日本社会が復興の軌道にのり始めたころであり、物資の流通も多少良くなりつつあった。この頃、ゲイロード・ハウザーの「若く見え 長生きするには」(Look younger, Live longer)と言う書物があらわれベストセラーになった。G. ハウザーは栄養学の専門家として映画の都ハリウッドでも健康と美容のための栄養指導をしていたので、世界中からはあこがれの先生であった。お陰でこの時期に長寿という言葉が鮮明に刷り込まれてしまい、同時に、人間の健康や美は科学的に調べられるがつくるのはご自分ですよということも教わった。現在、からだの健康と運動の関わりを専門とする立場から長寿の条件をあれこれ考えているが、書物との出会いやその寿命についてもたいへん関心がある。名著の長生きについてはいろいろな理由があげられようが、現代においても求められる内容の存在はその一つだと思う。学生時代に恩師杉靖三郎教授はその名講義のなかで忘れられない一冊の書物を挙げた。

アレキシス・カレル著 「人間 この未知なるもの」(Alexis Carrel: Man, the Unknown)は

1935年(昭和10年)に出版され、当時から名著であると言われてきた。日本では昭和13年の桜澤如一氏及び昭和55年の渡部昇一氏のお二人の翻訳者によって紹介がなされている。A. カレルは1873年にフランスで生まれた。リヨン大学では1889年に文学士、1890年に理学士、そして1900年に医学の学位を得た。専門の外科領域では実験研究を通じ血管縫合に関する技術を完成させ、その後はアメリカのシカゴ大生理を経てロックフェラー医学研究所で組織培養の研究に従事した。1912年、ノーベル賞はこの二つの業績である血管縫合と臓器移植の研究に与えられた。

このような業績のことや幼少で父親を亡くし母親がよい教育者であったこと、多感な青年前期に豊かな大学教育を体験していることなどは、現在のたいへん興味のあるところである。しかしながら、この書物のどの内容が眠れないほどの刺激となったかは当時を振り返って思い出すままに二三列挙したい。

運動・スポーツ・健康などの研究領域では人体を非侵襲的な実験である程度まで深く分析できるし成果の応用も可能であるが、いざ本番となると

人体はいつのまにか人間に変わってしまい期待の成果が得られない。当時、科学研究らしきものは何の役にも立たないと言われたし、現在のレベルにおいても満足なデータが得られなくていららうることがある。A. カレルは人間とは何かを問い、今後はまるごと人間の科学が必要であること、分析から総合への新しい方法論が確立されねばならないこと、人間の科学には精神の研究を導入する必要があること、視野の狭い専門家は危険であることなどを整然と主張した。これは実に魅力的であった。この内容や課題はいずれも現代に生き続けている。

解剖学から生理学に至る知識を基礎的なレベルで整理しておくことは昔も今も変りはない。ただ、生体の知識は生きものらしく機能的な状態で理解することが望ましい。カレルは、部分を分析した結果はいつも全体との関係で認識し知の構造化に持って行くよう主張している。いっぽう、個体の全体機能やパフォーマンスは観察等で熟知し、その上で部分の存在とその役割が適確に評価されることも勧めている。具体的には器官・細胞組織の資質と鍛練の可能なこと、男女の性の特色とその教育的な意義の重要なこと、各種の刺激に対する生体の適応現象の成立のことなどである。行動する身体と機能という観点は精神の関与を認めるものであり、これらはまた新鮮な刺激となったのである。

医学・生理学の自然科学者であるA. カレルがどうしてこれほどまでに精神のことに多くのページを割くのであろうか。当時はこんなことがまた関心事となった。細胞の研究とこころの研究は研究方法の発想を変えて徹底的に分析することとか、総合化では心身をセットにしてその現象を先ず観察することなどには大変興味があった。これらは、東洋の躰や修行の過程における心身一如と比較して納得したものである。現実には、長いリハーサルのすえに役者が役になりきることに成功したり、運動プログラム（知的プロセス）の苦しい修練のあとに技術が自然に決まるなどがあった

り、いずれも現代に生き続けている。

A. カレルの著書は、精神活動と身体機能の関係に止まらず、美的活動から宗教活動まで多方面に及んでいる。とくに、道徳に関する見出しは驚くべきことであった。倫理や道徳は人として守るべき道のことであり個人の行動に関する規範とされているが、カレルは精神医学や生理学の分析的な研究を通じこの成果を健全な人間の生活行動の基礎にできるという発想を持っていた。その後、フランスの精神生理学者P. ショシャルの「道徳の生理」が生まれたり、R. ギルマンらの視床下部の機能に関する研究が進むことで心身相関の科学的な背景が見え始めてきた。特に、精神（知）の動きと快・不快の情緒中枢や性中枢の活動が日常の生活行動になんらかの結果をつくるとなると、主張が生きてくることになる。

この書物は、生命のこと、健康のこと、身体と精神のこと、環境のこと、適応のことなど豊富な内容を持っており、時代の変化に応じて益々価値が大きくなってきたように思う。時代が求める内容こそは長寿の要素である。もう一つはこの内容に情熱的に呼応された二人の翻訳者の要素も極めて大きいと考える。本書の長寿は翻訳者の歳月を越えた絶妙のリレーの賜と言える。桜澤如一氏は思想家として東洋医学や東洋文化の西洋との交流に携わるなかで本書に接し、化学反応のように翻訳に駆り立てられてしまったお一人である。渡部昇一氏は英語言語学者として医学の内容が一般の読者にさらにわかり易くなるよう表現や見出しに創意と工夫を凝らしており、また再度の翻訳という行為もカレルの真の教養に深い理解と共鳴があつてのことであり、本書の普及に全く労を惜しんでいない。その姿勢は実に爽快である。名著の寿命は突出した名人の協力でさらに続くようである。

（たけみや・たかし

体育・芸術図書館委員会委員長、
体育科学系教授）

研究と図書館

杉下 靖郎

研究を推進するには、図書館の資料が不可欠であることは言うをまたない。

人間のする事は、歴史の上の積み重ねである。特に自然科学の研究はそうである。先人の仕事を受け、それを基盤として、その上に自分の仕事を積み重ねる。そしてその総てを次の時代へ譲り渡す。また、同時代の研究者の間では互いに情報を交換し、切磋琢磨して全体としての研究が進んで行く。このように、今までに得られた業績を知るために文献が必要であり、それらが掲載されている書籍、雑誌を総て自分で所有することは不可能であるので、そのために図書館の存在が必要となる。特に自然科学の分野では、自分の研究に関係の有る論文を中心に読むので、その傾向が強い。

* * *

研究には、独創性がなければならない。自らの研究の成果を出して勝負をしなければならない。自らの発想に基づき、自らの独創性ある結果を出さなければならない。他人の模倣であってはならない。日本の自然科学の歴史を見ると、現在有るものは西洋で生まれた自然科学であり、それは、江戸時代の鎖国の頃のオランダを通じて入った僅かのもの以外は、殆どが明治になってから輸入されたものであり、そのため日本の自然科学の研究は、独創的というよりは、西洋の後を追うものが多かった。例えば、日本では最初の仕事であっても、外国では既に行われているというものがかなり有った。その傾向は長く続き、そして昭和の始めに至って或る程度進んでいた日本の自然科学も、終戦の打撃により、再び欧米のレベルから大きく引き離され、それに追いつくために、また多くの歳月を要した。それ故日本の自然科学の研究は体質的に独創性に乏しかった。

また、世の中には文献をよく読み、博学で他の人の研究に対して批評をよくする人がいるが、それだけでは評論家であって、研究者ではない。研究者と評論家とは異なるものである。研究者はそ

の研究の為に文献を読まねばならない。それを基盤にして自分の研究を進めなければならない。しかしその文献の中で溺れてはならない。その中から自分の道の糸口を見つけ、新しい道を作らねばならない。ゆえに、常に少し離れて読まなければならない。

戦前の日本の医学の研究の中で、世界に誇ることの出来る独創的なものの一つに、赤痢菌の発見がある。その発見者である志賀潔博士が語った言葉がある。「研究を始めるには文献を調べずに先ず自分の考えで実験をすること。一段落したところで文献を調べていった方が独創的な研究を展開できる。」誤解されると困るので付け加えるが、新しいアイデアを浮かべるためには、何もなくて唯考えていても何も思いつかない。基礎にその分野の正しい知識があり、最近までどのような論文があるかを知らなくては、その分野の独創的な考えを思いつくことは出来ない。そのために常に論文を読んでいなければならない。模倣するために論文を読むのではない。

* * *

近年、図書館のシステムが、利用者にとって非常に便利になった。コンピュータの応用のお陰であろう。或るテーマ、或る著者で索引をすると、たちどころにリストが現れるのは非常に有り難い。我々が若い頃、苦勞して文献検索をしたのを思い出すと隔世の感がある。さらに、図書館に行かないでも自分の部屋でそれを知ることが出来る。抄録も出て来る。唯、漏れ聞くところによると、そのために、その抄録のみを読んでその論文全体を読んだことにしてしまう人がいるという。これは危ない。抄録は方向付けに過ぎないのであるから、それで興味の有るものは全文を読むことを怠らないようにすべきである。

* * *

もう一つ、若い人、特に学生に注意しておきたい。図書館の閲覧室は、静かに本を読むところであ

る。ところが、普通の大きさの声で談笑している者が、時に居る。注意をすると、にやっと笑うだけである。我々が大学に入学した時、図書館の中では静かにしなさいと言われたことはなかった。静かな部屋に入ったら、ここは静かにすべき所だと、感じ取らねばならない。その感覚がなければならぬ。また、今の学生は子供の時から叱られた事がないから、叱られ方を知らない。

* * *

とにかく、図書館は我々研究者にとっては、無くてはならないものであり、今後さらに有用なものとなり、その環境が維持されることを祈っている。

(すぎした・やすろう)

医学図書館委員会委員長、
臨床医学系教授)



大型コレクション「中国第一歴史档案館所蔵歴史档案史料」について

楠木 賢道

筑波大学附属図書館は、平成8年度の国立大学附属図書館大型コレクションの予算配分を受け、

「中国第一歴史档案館所蔵歴史档案史料」(マイクロフィルム)を購入した。「档案」とは、行政過程において作成され、集積された公文書を意味する漢語であり、中国第一歴史档案館は日本の国立公文書館にあたる。明朝・清朝の宮殿であった北京の故宮博物院の西華門内にあるこの中国第一歴史档案館には、主として清朝時代(1636-1912年)に作成された膨大な档案史料が保存されており、研究者の調査を受け入れている。

中国第一歴史档案館では、整理が終わった档案のうち、史料的価値が高いと考えられるものを、影印本や活字に組み直した史料集として出版しており、主要なものは本学附属図書館にも所蔵されている。また大部のため出版することが困難な档案については、マイクロフィルムを作成し、これを研究者の利用に供している。筆者ら歴史・人類学系の教官がこのようなマイクロフィルムの中から特に重要と考えられる4点を選び、大型コレクションとして購入することを希望し、このたび架蔵されることになったのである。

その4点とは以下の通りである。

『宮中硃批奏摺財政類』

(16mmマイクロフィルム64リール)

『軍機処録副奏摺農民運動類』

(16mmマイクロフィルム49リール)

『軍機処上諭档』

(35mmマイクロフィルム395リール)

『満文内国史院档』

(35mmマイクロフィルム3リール)

35mmマイクロフィルムには1リールあたり約600コマ、16mmマイクロフィルムには1リールあたり約3,200コマ撮影されており、単純に計算すると4点で合計約60万コマとなる。いかに膨大な史料であるかがわかるであろう。

中国第一歴史档案館では、清朝時代に档案が集積された場所によって、宮中档案・軍機処档案・内閣档案などと大きく分類している。

清朝では、明朝の文書制度を踏襲して、正式の上奏文として題本という形式を用いた。高級官僚の記した題本は輔弼機関である内閣にまず届けられ、内閣では大学士らが決裁原案を短冊状の紙片に記し、題本とともに皇帝に呈した。皇帝は最終的な決裁をおこない、その決定が題本の冒頭に硃で記された後、内閣を経由して各官庁への伝達機関である六科に届けられ、六科では決裁文とともに題本を即日筆写し、関係官庁に送付した。また題本は年末にまとめて内閣に返却され保管された。このため題本は内閣档案に分類されている。

康熙帝の治世(1661-1722年)の半ばになると、国政にかかわる情報を高級官僚が秘密裏に迅速に上奏する必要から、奏摺という上奏文の形式が重要案件に対して用いられるようになった。奏摺は臣下が皇帝に差し出す私信が発展したもので、内閣を経由せず、皇帝が直接開封し、奏摺の

余白（通常は末尾）に硃で決裁を記し、官僚に返送した。このように皇帝が自ら決裁を記した奏摺を硃批奏摺という。官僚は硃批奏摺を拝読した後、また返送し、返送された奏摺は皇帝の執務室である内廷の乾清宮に保管された。このため硃批奏摺は宮中档案に分類されている。一説によると、現存する硃批奏摺は72万件余りであり、このうち約57万件が中国第一歴史档案館に所蔵されているという。この硃批奏摺は、内政・外交・民族事務など18類に区分されており、このたび附属図書館に架蔵された『宮中硃批奏摺財政類』は、この18類のうちの一つであり、8万件余りの硃批奏摺が収録されている。すでに中国第一歴史档案館編『清代硃批奏摺財政類目録』（中国財經出版社、1990-1992年）全5冊という詳細な目録が出版されており、検索に便利である。また乾隆10年

(1745)頃までの部分には、清朝の支配民族の言語である満洲語と漢語の両言語で記された奏摺（満漢合璧奏摺）が含ま

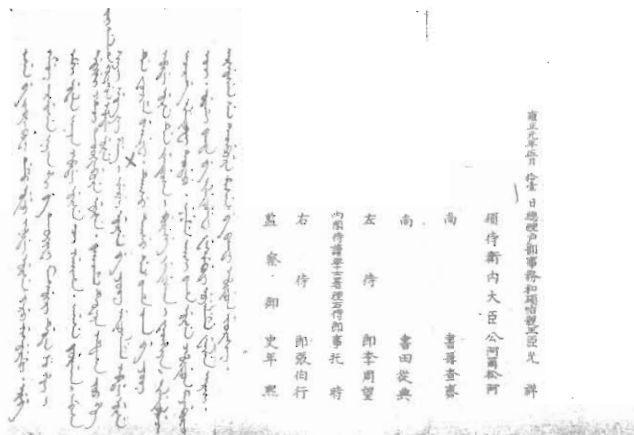


図1. 『宮中硃批奏摺財政類』第25リール、塩務、439-002文件

れている。図1は、雍正元年5月11日（1723年6月13日）に総理戸部事務和碩怡親王の允祥らの記した満漢合璧奏摺の一部である。図1の右半分は漢文部分の末尾であり、上奏者の官職・氏名が列記されている。左半分は、左から右に行をおくって記す満文部分の末尾に続く余白に、雍正帝自らが満文で硃批を記したものである。満文のみで記した奏摺も、中国第一歴史档案館には8万件余り保存されているが、『宮中硃批奏摺財政類』には収録されていない。

康熙帝を継いだ雍正帝（位1722-1735年）は、特に急を要する軍務を処理するため、雍正7年（1729）に軍機処を設立した。さらに乾隆帝（位

1735-1795年）の治世以降になると、軍機処は内閣に代わって国政全般に関与するようになった。軍機処では、皇帝の諮問に迅速に答えるため、硃批を付した奏摺を上奏者に返送する前に、複写を作成し保管するようになった。このように軍機処で複写、保管された奏摺を軍機処録副奏摺という。現存する軍機処録副奏摺は100万件を越えるといわれている。この軍機処録副奏摺は、半月毎に一包みにして保存されていたため月摺包とも呼ばれる。原本である宮中档案の硃批奏摺が散逸していることも少なくなく、軍機処録副奏摺はその欠を補う重要な史料である。軍機処録副奏摺も、宮中档案の硃批奏摺同様に18類に区分されており、このたび附属図書館に架蔵された『軍機処録副奏摺農民運動類』は、この18類のうちの一つである。『軍機処録副奏摺農民運動類』は、捻軍・

太平天国・義和団・辛亥革命・秘密結社などの項目に区分されており、中国近代史研究のための不可欠の史料である。秘密結社の一項だけでも、150余りの秘密宗教結社・秘密政治結社に関する史料を含んでいるという。なお『軍機処録副奏摺農民運動類』は、その内容を考慮してか、中国第一歴史档案館では現在、『軍機処録副奏摺鎮庄革命運動類』と名称変更されている。この録副奏摺には

困ったことが一つある。それは皇帝に呈された奏摺の原本が楷書体で記されているのに対して、軍機処の実務に利用するために作成された録副奏摺が行書体・草書体で記されていることである。これを判読するためには、伝統的な漢文のほか、中国のくずし字、清朝の政治制度、行政文書で用いられる独特の文体（公牘体）、現代漢語等にある程度習熟する必要がある。

軍機処では、皇帝の諮問に備えて、硃批奏摺だけではなく、上諭も複写が作成された。上諭とは皇帝の命令や指示のことで、軍機処ではこれを取りまとめて、1ヶ月分を1冊、あるいは3ヶ月分を1冊に綴じて保管した。このたび附属図書館に

架蔵されることになったマイクロフィルム『軍機処上諭档』とは、このことである。第1リールには雍正年間の上諭が収められており、第2リール以下は乾隆年間以降宣統3年(1911)までの上諭となっている。皇帝の命令や指示である上諭は、それ自体、法的な拘束力をもっており、清朝では各種の案件を処理する法的根拠を得るために、しばしばこの『軍機処上諭档』が検索された。また『軍機処上諭档』のなかには、軍機処が皇帝の諮問に答えた上奏文(議覆)などの複写も収録されている。

『満文内国史院档』は、上記3種の档案史料とは趣をことにする。内国史院とは、清朝の内閣の前身である内三院(1636年設立)のうちの一つであり、『満文内国史院档』は内閣档案に分類されている。この『満文内国史院档』は、太宗ホンタイジ(位1627-1643年)の事跡を編年体でまとめた『太宗実録』の稿本の一つであると考えられ、大半は満洲語で記されており、一部モンゴル関係の記事はモンゴル語で記されている。図2に示したように塗抹修正部分が多数あり、場合によっては塗抹修正の政治的意図を読みとることもできるホンタイジ時代の根本

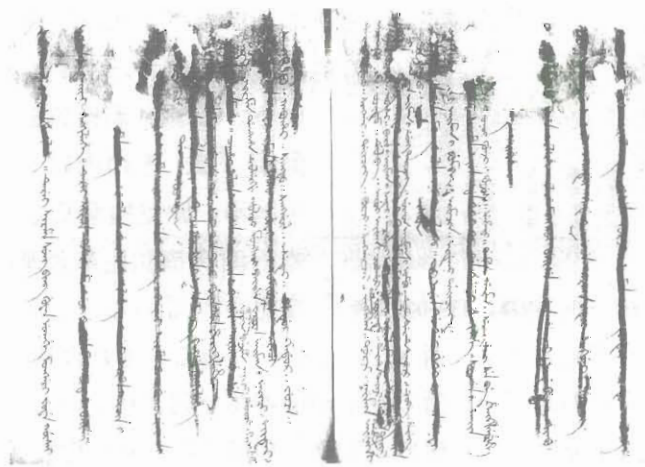


図2. 『満文内国史院档』第1リール、天聰7年(1633)正月条

史料である。なお中国第一歴史档案館に所蔵される『満文内国史院档』の原本は、ホンタイジに続く順治帝(位1643-1661年)の部分も存在するが、このたび架蔵されたマイクロフィルムには含まれていない。

以上の4点の档案史料のうち、分量的に僅かである『満文内国史院档』については、国内のいくつかの研究機関や個人がマイクロフィルムを所蔵

している。ただ他の3点については、膨大な分量でしかも高額であるため、日本において所蔵している研究機関は本学附属図書館のみである。世界的にみても、台湾の中央研究院近代史研究所が『宮中硃批奏摺財政類』のマイクロフィルムを購入したらしいということを、筆者は仄聞するだけである。

公刊された編纂史料とは異なり、档案史料を利用するためには、元来その所蔵機関に赴いて調査しなければならなかった。筆者も大学院在学中以来、しばしば中国第一歴史档案館・台北の故宫博物院文献館等で調査を行ってきた。実物を手にとって調査する、あるいはマイクロフィルムすら作成されていない文書の山から新たな史料を発掘することは、歴史研究にとって最も重要な作業である。しかし国外の所蔵機関に赴き、限られた時間の中で調査することが、研究者にとって多大な負担となることも事実である。このたび上記の档案史料が本学附属図書館に架蔵されたことによ

って、為政者側から見た政治史料が主要部分であるという限定はつくが、清朝史研究、及び辛亥革命(1911年)以前の中国近代史研究のための本学の史料的环境は、世界的に見ても最高水準になったとって過言ではない。学生諸君にとっては、行政文書の文体、清朝の政治制度などにある程度習熟すれば、学類の卒業論文に利用することも可能なのである。今後、「中国第一歴史档案館所蔵歴史档案史料」を学内の教員・学生、学外の研究者の共有財産として活用していきたいと思う。また「中国第一歴史档案館所蔵歴史档案史料」を核として、東洋史研究のための特徴あるコレクションを本学附属図書館に構築していければとも考えている。

註) 本稿執筆にあたり、秦国経『中華明清珍档指南』(人民出版社, 1994年)を参照した。

(くすのき・よしみち 歴史・人類学系講師)



視聴覚メディア特選

筑波大学附属図書館では、中央、体芸及び医学の各図書館にそれぞれ視聴覚室を置き、積極的にサービスを行っています。資料の総数はおよそ9,000点で、よく利用されているCD、LD、ビデオカセットの他にもレコード、音声テープ、スライド、16mm映画フィルムなども所蔵しています。これらの資料は、オンライン目録（コンピュータ端末）で検索できます。

それでは、これから各館にご案内しましょう。

中央図書館

文献探しや読書に疲れたら、新館2階視聴覚メディア室に寄ってみませんか？

ショパンのピアノの心地よい調べに浸ってひとときの気分転換。三遊亭圓生の味のある名調子はオーバーヒート気味の脳細胞をリフレッシュさせてくれるでしょう。ここでは、本学の研究を側面からサポートする学術資料を主体として、更に芸術、スポーツ、ドキュメント等、趣味、教養の範囲にまで幅広い資料の充実に努めています。それらの中には、たとえばこんな資料があります。

[LD]

ヤング・ピープルズ・コンサート 全13タイトル

(日本語字幕付) [LD-CL0339~CL0351]

レナード・バーンスタインが、若年者を対象に手掛けた音楽番組「Young People's Concerts」(1958~1970年アメリカCBS テレビ放映)のビデオ化。

音楽の本質を、極めて平易な言葉で説得力豊かに語り、クラシック音楽の若い聴衆を育てる教育的評価の高い作品。

ザ・ビートルズ・アンソロジー 2枚組

(日本語字幕付) [LD-CL0352~CL0353]

ビートルズの誕生から解散までをメンバーの回想と貴重な映像、音源で綴ったオフィシャル・バイオグラフィ。ビートルズの足跡を記録する未発表映像も多数収録され、見応えたっぷり。「心の聖書(バイブル)」という名の伝説はまだ終わらない。

[CD]

ザ・モダン・ジャズ [CD-CL0841]

モダン・ジャズ3大レーベル(ブルーノート、プレスティッジ、リバーサイド)に残された巨人たちの決定的名演(全12曲)を集めた究極のコンピレーション。付録の「モダン・ジャズ読本」には曲目、演奏及び出典アルバムの解説のほか、ジャズの歴史等の詳細な解説や、収録ジャズ・メンのカタログ・リストも掲載され、ジャズの初心者にも親しみやすい作品。

コンプリート・ラスト・レコーディングス/セロニアス・モンク [CD-CL0840]

モダン・ジャズ最大の鬼才セロニアス・モンク最後の大傑作として語り継がれてきたロンドン・セッションの3枚のアルバムを2枚に収めた完全盤。モンクファンはもちろん、すべてのジャズファン必聴。

フェアリー・テイル/木住野佳子(きしのよしこ)

[CD-CL0843]

ジャズ界に新しい流れを生み出す期待のピアニスト木住野佳子のデビュー・アルバム。アルバムのタイトルにもなっているオリジナル曲「Fairy Tale」は、「“おとぎ話”という意味、雄大な優しさの中に力強さがある曲に…」と彼女自身解説の中で述べており、マイケル・ブレッカーの力強いテナー・サクスの演奏も印象的。

[ビデオ]

NHKスタンダード日本語講座(NHK Standard Japanese Course) 全25巻 [810.7-N11-1~25]

日本語の話しことばの習得を目指す初級学習者を対象に作られたビデオ。場面に応じた自然な会話に聞き慣れることから、次第に基本的な文法、表現を身に付けていけるような構成で、付録のテキストはそれだけでも日本語学習に使用できるよう、対話の内容、文法・表現の説明、練習問題から成り立っています。

留学生・技術研修生のための使える日本語(科学技術基礎日本語ビデオシリーズ)(Practical Japanese for science and technology) 全10巻 [407-Ka48-1~10]

特に科学技術の分野での初歩的な日本語を扱ってい

るのが特色。動作・操作をあらわす表現から性質・状態・変化をあらわす表現まで、技術研修生に親しみやすい背景、題材で、文法的な情報も盛り込まれた実用的なビデオ。金沢工業大学企画・制作。解説書付き。

体育・芸術図書館

ワールドカップ出場権も無事獲得できたところで、サッカーファンもそうでない人も見逃せないこの1枚。かと思うと、「地球にやさしい...」は健康科学のテーマにまでなっていて、ライフスタイルを見直したい方には必見のビデオも。あるいは、まったく違う角度から日本文化を味わうなら、伝統工芸・建築を仔細に捉えたソフトもあります。体育・芸術図書館ならではの品揃えは、芸術、スポーツという身近なテーマから、更に奥の深い学問分野まで、きっと新たな発見をもたらしてくれることでしょう。

[LD]

History of the World Cup [LD-PL0074]

本学の卒業生も大勢活躍している日本代表がワールドカップの出場権を獲得したが、出場できなかった44年の間のワールドカップの歴史を紹介する。ペレ、ベッケンバウアー、ジーコ、マラドーナ、リネカー、スキラッチ... “People's Game” といわれるワールドカップの歴史を振り返って、出場することがどれほど素晴らしいことかあらためて確認したい。

[ビデオ]

地球環境時代のライフスタイル [498.4 -H93-15]

「地球にやさしいライフスタイル」がそのまま健康づくりのためのライフスタイルとして通用すると説くこのビデオは、放送大学の講義「環境の健康科学」全15巻の最後の巻にあたり、テキストは小泉明による。「生体はその環境との関わりにおいて生活し生存を全うしている」ということを学ぶためには全15巻を通して見てみたい。

宮大工西岡常一の仕事：木の文化の本質をめぐって [521.81-I95]

木造建築の工芸の粋というばかりでなく、日本文化の本質をここに見ることができる。「材木は自然の方位のままに従うことが大事です。山の南側に生えた木はお堂の南側に...」内容は、白鳳伽藍復興の手法と手

順、薬師寺伽藍設計の基本的な考え方、東塔の様式と構造、金堂の設計、回廊設計のよりどころ、用材計画と台湾ヒノキほか。

医学図書館

「在宅医療」「音楽療法」「ターミナルケア」...。最近よく目にする言葉でも、なかなか理解し難い医学の世界に、もし少しでも興味がありましたら、医学図書館の視聴覚室を覗いて見て下さい。ここには、医学教育に結びついた専門的な資料を中心に約1,000点。レントゲン写真や心音CDなど、普段はあまり身近でないような資料ばかりでなく、老人介護のノウハウ、エイズ予防のビデオなど一般的にも充分役立つソフトも備えています。医療問題の現実と接するツールとして映像・音声資料を活用してみたいはかがでしょうか。

[ビデオ]

生命倫理を考える：終わりのない8編の物語 全8巻 [490.15-Se18-1~8]

このビデオシリーズは、近年の医学ならびに医療技術の進歩に伴い浮上してきた倫理的、法律的及び経済的問題について、これまでに公表されている実際の事例などを参考にした結論を設けていない8編の物語からなり、生命倫理の諸問題についての論議をより有意義なものにするための構成となっています。

救急蘇生法の実際 [492.29-Ky9]

このビデオは、すべての医師に必要とされる救急蘇生法の正しい方法についてまとめられたものです。内容は、特に器具を要せず行える「一次救命装置」と一般医療機関内で医師が一定の補助器具を用いて行う「二次救命装置」の2部に分けて紹介されています。

いかがでしたか。ぜひご利用下さい。

なお、各館に於ける利用時間は次の通りです。

中央図書館	平日	9:00 ~ 19:00
	土・日	—————
体育・芸術図書館	平日	9:00 ~ 22:00
	土・日	—————
医学図書館	平日	9:00 ~ 22:00
	土・日	13:00 ~ 18:00



※ 外国雑誌の購入について

教員Q先生：外国雑誌を購入したいのですが、どうしたらよいですか？

職員Aさん：雑誌の購入は図書と違い、全て学系等单位での購入となっています。毎年6月に図書館から各学系等へ翌年度分の購入雑誌を照会していますので、その時「雑誌請求票」を提出して下さい。

なぜ前年度の6月という時期に照会するかというと、外国雑誌の購入は予約制であり、購入年度が1月から12月であるためです。したがって、購入年度の前年度10月中旬頃には書店に発注し、出版社へ1年間分の購読予約をしておいてもらわなければなりません。そのため、各学系等から提出していただいた「雑誌請求票」をもとに、全学的に新規購入・購入中止等を調整したり、発注する書店を選定したりする期間が必要ですので、前年度6月に照会しています。予約制のため年度途中からの購入は出来ませんので、注意して下さい。

なお、「雑誌請求票」の記入の仕方は、照会の際添付する「雑誌請求票記入の手引き」、または「筑波大学附属図書館利用案内教員版」を参考にして下さい。

Q：書店の選定と価格の決定は、どのようにして行われていますか？

A：50万円以上の高額誌は毎年、それ以外の雑誌は3年に1度、雑誌のタイトルごとに「見積合わせ」を実施しています。「見積合わせ」というのは、それぞれの書店にいくらで雑誌を納入出来るか見積書を提出してもらい、その見積金額が最も安い書店に発注をすることです。

Q：外国雑誌は、毎年値上がりするようですが？

A：外国雑誌の購入価格は、原価（外貨）と為替

レートによって決定します。外国雑誌の原価は、毎年2割前後値上がりしているのですが、為替レートの変動によっても購入価格は上下しますので、今後購入価格がどの程度値上がりしていくかは、予測することが難しいところです。為替レートは、発注時期のレートを採用しますが、近年は円安傾向にある通貨が多く、購入価格が原価の値上がり分以上に値上がっているのが現状です。そして、購入価格が毎年値上がりすることはほぼ確実のようです。ですから、今後各学系等において、購入雑誌の見直しをしなければならない可能性は高いと思います。図書館購入分の外国雑誌についても、見直しをせまられることとなりそうです。

Q：雑誌の購入を中止した場合、本学からなくなってしまった雑誌を利用するためには、どのような方法がありますか？

A：『学術雑誌総合目録』やNACSIS-Webcatを利用すれば、探している雑誌をどこで所蔵しているかがわかります。そこで、その雑誌を所蔵している他大学の図書館等に、相互利用によって文献の複写を申し込むことが出来ます。申し込みは、各図書館のレファレンスデスクで受け付けていますので、所定の申込書に記入して申し込んで下さい。依頼先としては全国の国公立大学図書館、国立国会図書館のほか、英国図書館（BLDSC）など国外へも依頼することが出来ます。費用は、国立大学附属図書館に依頼した場合、1枚当たり35円の複写料金と郵送料が必要です。

また、例えば、前号で紹介した「Current Contents」のようなCD-ROMデータベースを利用して、目次情報を検索することができます。目次から必要な論文を選んで、文献複写をお申込み下さい。

Q：ところで、「オンラインジャーナル」と呼ばれるインターネット（WWW）上で提供されている雑誌があるそうですね。

A：はい。全文や画像などの情報を利用するためには、有料のものがほとんどですが、目次情報や抄録でしたら無料で利用できるものもあります。利用方法は、それぞれのジャーナルのURLに直接アクセスしたり、出版社が提供するオンラインジャーナルシステムを利用します。

（画面①）

（画面①）

一例として「American Society for Microbiology」が発行している「Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology」という雑誌を利用してみます。

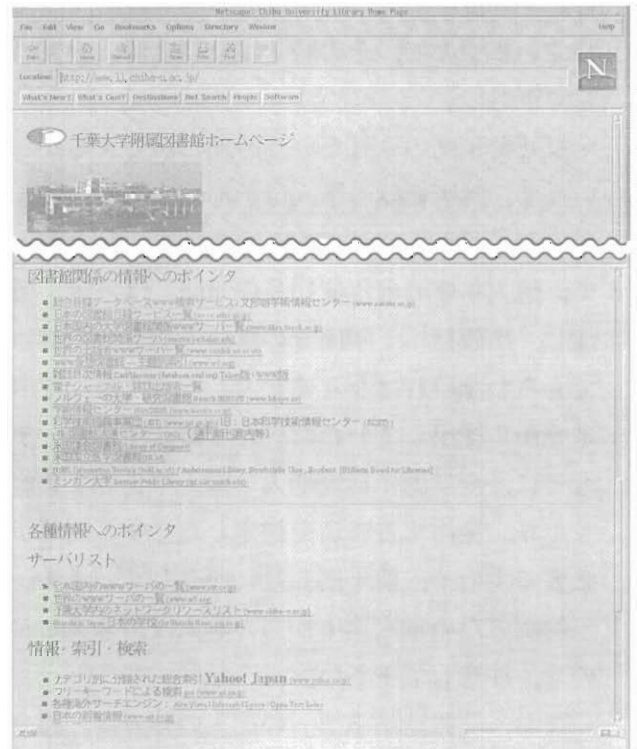


検索したいVol. No.をクリックすると、コンテンツ・抄録等を見ることができます。（検索した出版社・雑誌等によって、検索出来る項目は違います。）

大学図書館のホームページでオンラインジャーナルのリストを作成し、公開しているところもあります（画面②）ので、試してみたいかがでしょうか。

（画面②）

一例として千葉大学附属図書館のオンラインジャーナル・リストを利用してみます。



「電子ジャーナル・雑誌出版社一覧」をクリックすると、電子ジャーナルのリストが表示されます。検索したい雑誌をクリックすると、コンテンツ・抄録等を見ることができます。

（雑誌によって、学内者のみ検索できるものもあります。）

◎外国雑誌の購入について他に不明な点がある場合は、図書館部情報管理課雑誌受入係（内線2364）へご連絡下さい。



〔全国〕

国立大学図書館協議会理事会（平成9年度第3回）

11月6日（木）大阪大学の当番で開催されました。

〔報告事項〕 ○事業計画の実施状況について○要望書の提出について○国立大学図書館公開事業実施委員会報告○国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会報告○著作権特別委員会報告○図書館情報システム特別委員会報告○身体障害者サービスに関する調査研究班報告、ほか

〔協議事項〕 ○第44回総会のレビューについて○海外派遣制度について○中小規模図書館のアンケート調査について、ほか

〔地区〕

第30回関東地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

11月28日（金）放送大学の当番で開催されました。

〔報告事項〕 ○平成9年度第3回国立大学図書館協議会理事会等について○身体障害者サービスに関する調査研究班について○第42回・43回国公私立大学図書館協力委員会について○第31回関東地区国立大学附属図書館職員研修会について、ほか

〔協議事項〕 ○電子図書館への取り組みについて○事務組織再編等の検討状況について○事務組織の見直しに伴う附属図書館の在り方について○ホームページの管理について、ほか

〔学内〕

第203回附属図書館運営委員会（10月17日開催）

〔審議事項〕 ○電子図書館システムにおけるデータベースの著作権処理について

〔報告事項〕 ○図書館電子化推進特別委員会（平成9年度第2回）及び電子図書館システム

研究班研究会（平成9年度第4回）合同委員会について、ほか

第204回附属図書館運営委員会（11月21日開催）

〔審議事項〕 ○電子図書館システムにおける著作権処理について○平成11年度概算要求について

〔報告事項〕 ○平成9年度自然科学系特別図書について○旧東京教育大学蔵書廻及入力（平成10年度科研費）について○国立大学図書館協議会理事会（平成9年度第3回）について、ほか

電子図書館システムにおける著作権処理について

平成10年1月から稼働を予定している筑波大学電子図書館システムにおいて提供する本学研究成果等資料のデータベース登録・申請に関して、その考え方と実施要項等の具体的な手続きについてとりまとめました。詳細については次号でお知らせします。

平成9年度附属図書館防災訓練を実施

11月26日（水）に中央図書館において実施しました。

南関東直下でマグニチュード7、震度6の地震が発生し、中央図書館2階から出火、負傷者が発生という想定の下に訓練を行いました。今回は、図書館利用者にも参加いただき、避難・誘導訓練を中心に総合訓練を実施し、併せて消火器による初期消火訓練を実施しました。

また、車椅子での避難について、実際に幾つかの方法を試し、安全で迅速な避難・誘導の方法の確認を行いました。

体育・芸術図書館及び医学図書館においても、体芸地区及び医学地区の防災訓練の一環として、11月10日（月）に防災訓練を実施しました。

掲 示 板

電子資料の利用受付の変更について

中央図書館では、CD-ROM等電子資料の館内利用の受付は、これまでレファレンス・デスクで行っていましたが、10月から視聴覚メディア室に変更になりました。

体育・芸術、医学、大塚図書館では、今まで通りメインカウンターで受け付けます。

なお、CD-ROM等電子資料の一覧は、WWWページ (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/cdrom-list.html>) で提供しています。ご不明な点は、各図書館のレファレンス・デスクにお問い合わせ下さい。

電子図書館システム利用者用端末の設置について

電子図書館システム利用者用端末を各図書館に合わせて105台設置しました。この設置に伴い、中央図書館 2階レファレンスデスク前に、新たな端末のコーナーが設けられました。今まで以上に検索等でご活用ください。詳細については、次号の電子図書館特集の中でご紹介いたします。

複写機の移設について

中央図書館本館3階～5階の複写機をそれぞれのラウンジに移設しました。また、中央図書館本館5階及び体育・芸術図書館2階で、私費カラー複写機を試験的に運用しています。ご意見がありましたらお知らせください。